山川健次郎氏の略歴

下関・功山寺

青山墓地にある山川家墓地

山川家は、『会津藩諸士系譜』によると

初代　治大夫重宗、　二代　治大夫重仲、　三代　治大夫重増、　四代　治大夫増明、
五代　治大夫増敬、　六代　治大夫重往、　七代　治大夫重行、　八代　兵衛重英
九代　源治郎（重固尚江）　十代　大蔵（浩）　幕末では家老、大蔵の代で石高1,000石
300石の家系だったが、八代重英の代から家老職の家柄となる。

父尚江（なおえ）、母ゑん（唐衣・からころも）、兄弟は８人。
清之助（長男）、二葉（長女）、大蔵（次男・浩）、三和（次女）、操（三女）、
健次郎（三男）、常盤（四女）、咲子（五女・捨松）

健次郎は、嘉永7年（1854）閏7月17日（新暦9月9日）誕生。昭和6年（1931）6月26日没。76歳。

健次郎氏の略歴

万延元年（1860）山川重固が没。大蔵(浩)が家督を継ぐ。
明治元年（1868）白虎隊士となるが15歳のため戦闘部隊から外れる。鶴ヶ城開城後、猪苗代に謹慎。秋月悌次郎と長州藩奥平謙輔の密約により越後へ脱走、2年5月、謙輔の書生となる。大蔵は、明治3年、筆頭家老にあたる大参事となり斗南藩を牽引する。
明治4年（1871）　斗南藩の再興後、薩摩の黒田清隆の命により、開拓使養成のためアメリカへ国費留学生に選抜されて渡米。
明治8年（1875）　イェール大学に合格。物理学を専攻し、国費援助が途絶えた後も、米国人の援助があり、学位を取得して帰国する。
明治9年（1876）　東京開成学校（現東京大・明治19年に東京帝国大学となる）の教授補に33歳でなり、ピーター・ベーダー（ピーテェル・ベダル）の助手となる。明治12年には日本人初の物理学教授となる。
明治21年（1888）　磐梯山爆発。東京大学初の理学博士号が授与。26年には理科大学長となる。
明治34年（1901）東京帝国大学総長に48歳でなる。また東京学士会院会員に任命される。
明治37年（1904）貴族院議員に51歳で就任し、大正2年（1913）まで務める。
明治39年（1905）日露戦争後、政府を非難した教授が処分を受けた戸水事件により、東大総長を52歳で辞任する。
明治41年（1907）安川財閥（安川敬一郎・松本健次郎親子）の拠出により、現在の九州工業大学の前身明治専門学校設立に協力し、総裁となる。
1911年（明治44年）　九州帝国大学の初代総長となる。
大正2年（1913）再び東京帝国大学の総長に60歳で再びなる。12月、男爵を賜る。
大正3年（1914）京都帝国大学の総長も翌年まで兼任する。
大正9年（1920）東京帝国大学の総長を退任。
昭和6年（1931）6月26日、自宅で胃潰瘍を患い眠りにつく。伝通院で葬儀があり、東京帝国大学総長の長岡出身小野塚喜平次が弔辞を述べる。墓は東京の青山墓地にある。（石田明夫）

図・写真・文　©石田明夫2020　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索